

1 「早崎内湖ビオトープ」の概要

早崎内湖ビオトープは、昭和39年食料増産に向けて当時内湖(ないこ)であった早崎内湖を堰き止めて、70ヘクタールが水田化されたもので、昭和45年に完陸(かんりく:完全に陸地となること)しました。

しかしながら、この水田はびわ湖水面より低いため、常にポンプで水を排出して水田を維持する必要があり、経費がかかりました。また、30年以上経過したことでポンプ施設が老朽化し、更新時期を迎えていたことに加えて、米の生産過剰や農業の後継者不足等といった社会情勢もあり、もとの内湖へ復元する計画が持ち上がりました。平成13年11月に17ヘクタールに試験的に水を張り、以降、水生生物の復元状況を調査しています。

2 「ビオトープ観察授業」について

早崎内湖保全再生協議会(会長:倉橋 義廣)では、地元の小学校を中心に観察授業を開催しています。この総合学習は平成15年春から始まり、今年で 22 年目を迎えます。なお、この観察会は令和元年度まで早崎ビオトープネットワークが実施していましたが、令和2年度から早崎内湖再生保全協議会が引き継いで実施しているものです。

当日は、地曳網やたも網などを使ってさまざまな水生生物を採取して、早崎内湖ビオトープに生息する生物について学びます。

3 その他

- ・荒天の場合は、延期または中止することがあります。